

2024年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：大西 舞帆

所属：中国語学科 2年次

夏期海外研修は、私にとって非常に有意義であり、貴重な体験がたくさんできた一ヶ月でした。北京に到着し、初めは生活習慣や食習慣といった日本との違いに驚いたとともに、なかなか慣れることができませんでした。中国に滞在しているため、当たり前ではあるのですが、耳に入ってくる言葉が全て中国語なことにも初めは違和感がすごくありました。ネイティブの先生の授業についていけるかも非常に不安でした。最初の方の授業では聞き取れなかったことも多かったのですが、だんだん聞き取れるようになっていきました。先生方の説明は非常に分かりやすく、以前あまり理解していなかった文法も理解することができました。また、授業で習った単語をその日の日常生活で活かせることも非常に多くありました。ほぼ毎日、授業後は友達と街に出て遊びに行ったり、買い物をしに行ったり、夕食を食べに行ったりしていました。その際に出会った現地の方たちとの会話ややり取りが、リスニング力やスピーキング力といった中国語でのコミュニケーション能力の向上に大きく繋がったと感じています。休日に、大きなショッピングモールに遊びに行った際、私たちに喋りかけてくれた一人の女の子がいました。その子は日本語を勉強していて、私たちから日本語が聞こえてきたから話しかけてくれたそうです。その子とは連絡先を交換し、別れてからもお互いの国について話しました。中国に来て、中国の方との関わりができて非常にうれしいです。

インターンシップでは、実際に日本人の方が中国で活躍されている話を聞き、言語による可能性をすごく直に感じました。そのため、自分ももっと話せるようになりたい、言語能力を向上させて、卒業後、世界で通用する人になりたい、と強く思いました。

今回の海外研修では、万里の長城をはじめとする様々な中国の歴史ある場所を訪れたことで中国の歴史に対する認識を深め、約一ヶ月の中国での生活を経たことで文化や習慣を知ることができました。これらは中国に来たからこそ得ることができた大切な財産だと思います。この経験を活かし、語学力の更なる向上のため、勉学に励みたいと思います。